



2016年度(平成29年3月期) 第1四半期 決算説明会

エーザイ株式会社
2016年8月3日

将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

2016年度第1四半期 連結業績(IFRS)



(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	1,392	100.0	1,369	100.0	98
売上原価	494	35.5	498	36.4	101
売上総利益	898	64.5	871	63.6	97
研究開発費	327	23.5	262	19.1	80
販売管理費	499	35.8	437	31.9	88
その他の損益	4	0.3	86	6.2	2297
営業利益	76	5.5	258	18.9	339
四半期利益	55	4.0	209	15.3	379
四半期利益(親会社所有者帰属)	54	3.9	197	14.4	363

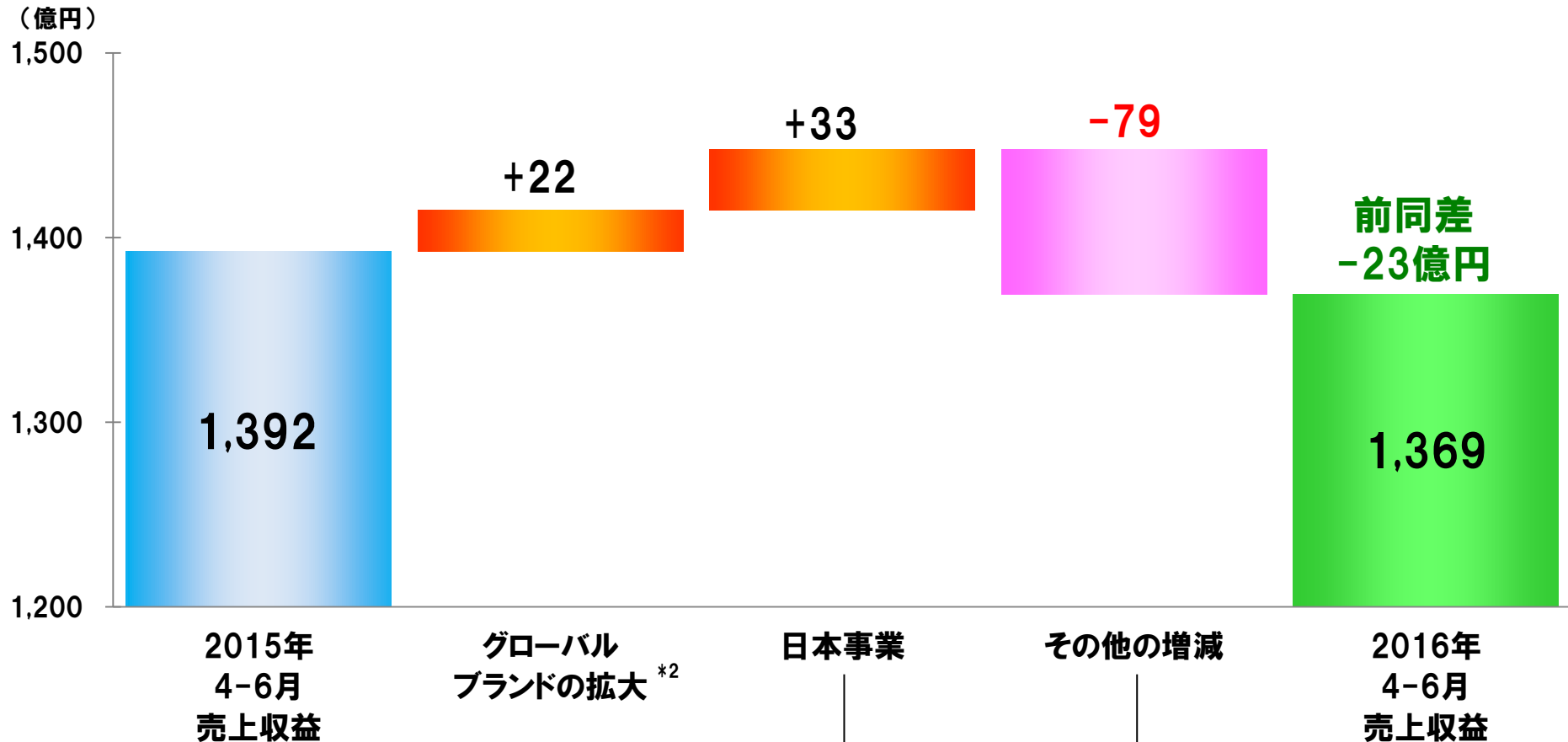
2016年度第1四半期期中平均レート

米ドル:108.14円(前期変動率△10.9%)、ユーロ:122.01円(同△9.0%)、英ポンド:155.10円(同△16.7%)、人民元:16.52円(同△15.5%)

売上収益の増減要因分析



グローバルブランド*1、日本事業の拡大により社内計画を達成



<主な増加要因>
◆ EAファーマの始動
<主な減少要因>
◆ 国内薬価改定
◆ 2015年度3Q エーディア株式会社の譲渡

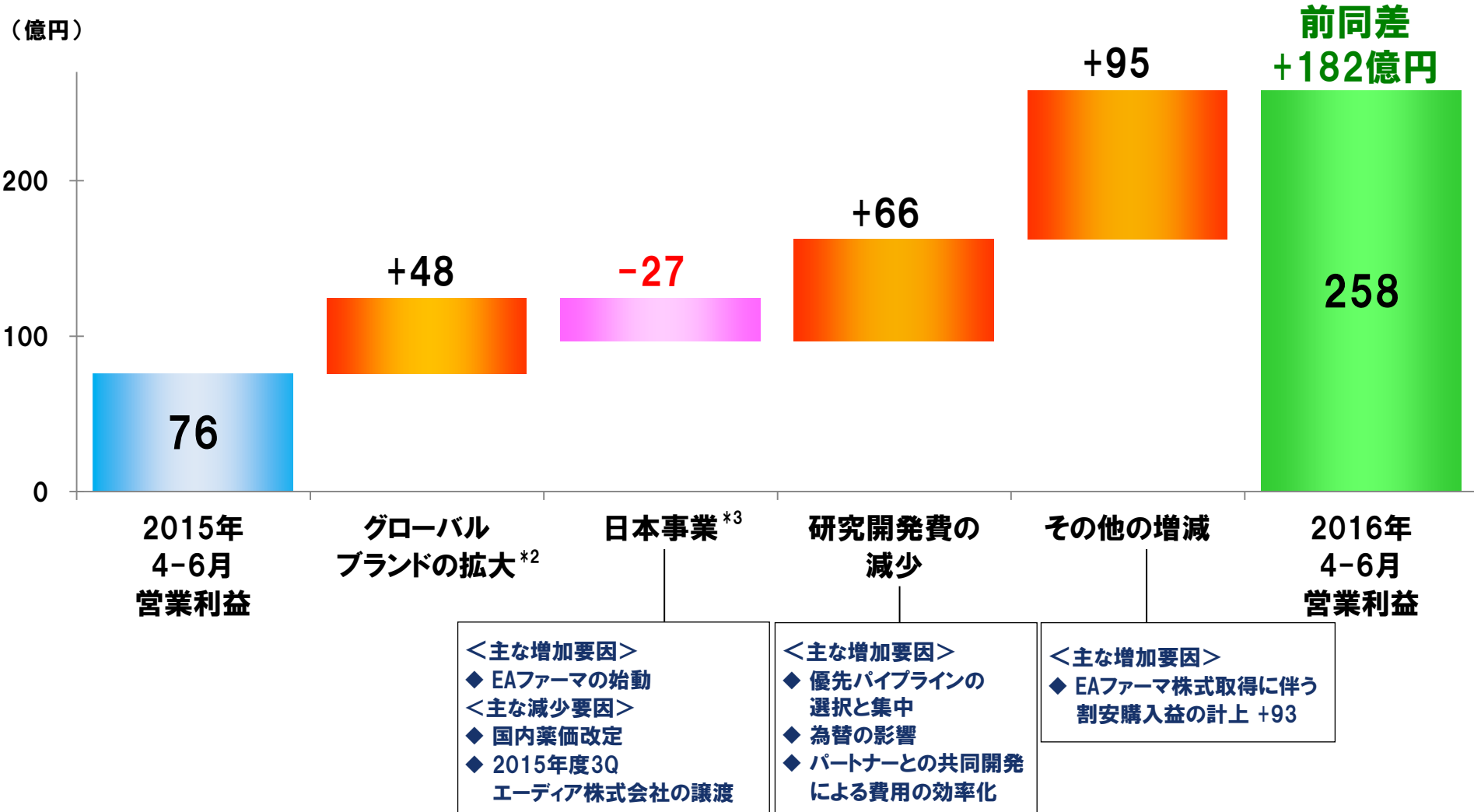
<主な減少要因>
◆ 米国 アリセプトの減収
◆ 2015年度4Q エーザイフード・ケミカル株式会社の譲渡

* 増減要因の数値は概数

*1 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQ *2 日本事業の実績は除く

営業利益の増減要因分析

グローバルブランド*1の拡大、費用の効率化が増益に貢献



* 増減要因の数値は概数

4 *1 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQ *2 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQの営業利益を表示、日本事業の実績は除く *3 セグメント利益を表示

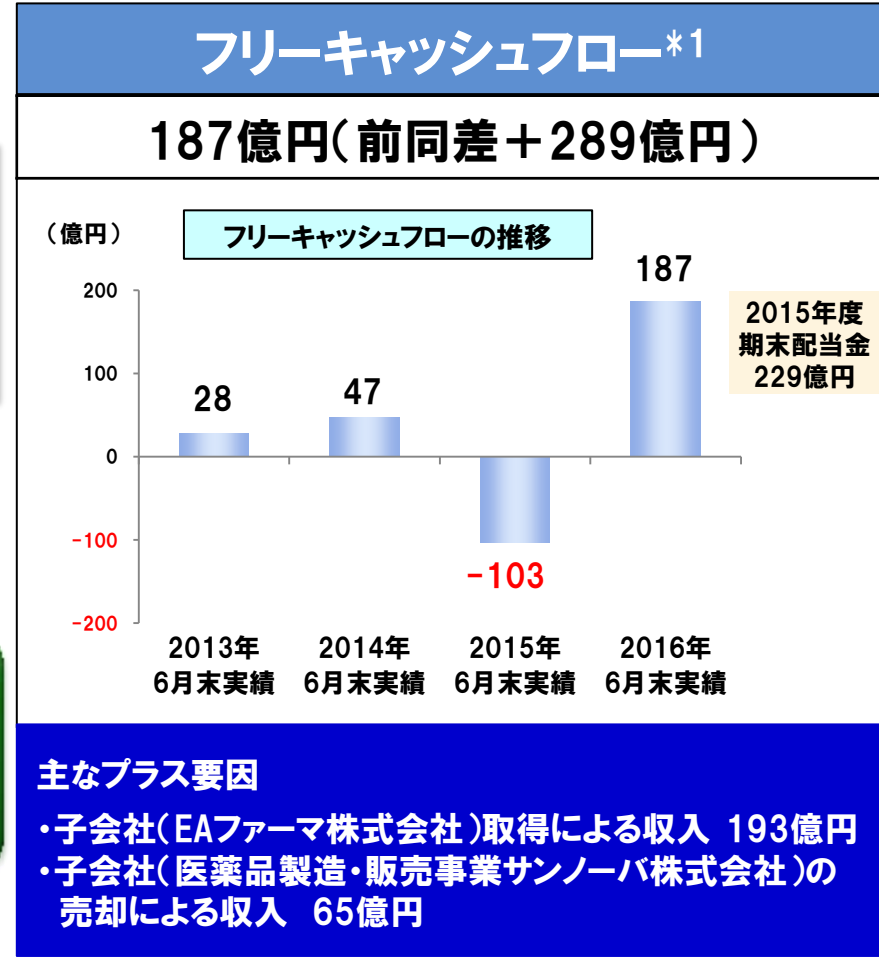
Strong Balance Sheet & Ample Cash Flow



バランスシート*1	
有利子負債	2,107億円
現金・有価証券	1,913億円
ネット有利子負債*2	194億円
Net DER*3	0.04倍
親会社の所有者に 帰属する持分	5,459億円
親会社所有者帰属 持分比率	56.7%

**Debt
Capacity
2000億円
レベル**

**配当金
150円
維持**



Net DER 0.3倍以下

親会社所有者帰属持分比率50%以上を維持

前年同期を大幅に上回る

フリーキャッシュフローを確保

* 配当金の決定は取締役会の承認を前提とする *1 2016年6月末実績 *2 ネット有利子負債=有利子負債(社債及び借入金)-現金・有価証券(現金及び現金同等物+3カ月超預金等)
*3 Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(社債及び借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分

2016年度 連結業績見通し(IFRS)



(億円、%)

	2015年度		2016年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	5,479	100.0	5,800	100.0	106
売上原価	1,945	35.5	2,105	36.3	108
売上総利益	3,535	64.5	3,695	63.7	105
研究開発費	1,223	22.3	1,242	21.4	102
販売管理費	1,928	35.2	1,969	33.9	102
その他の損益	136	2.5	53	0.9	39
営業利益	519	9.5	537	9.3	103
当期利益	550	10.0	324	5.6	59
当期利益(親会社所有者帰属)	549	10.0	292	5.0	53
EPS(円)	192.2		102.1		53
ROE(%)	9.4		5.0		
DOE(%)	7.3		7.3		
配当金(円)	150		150		

2015年度期中平均レート 米ドル:120.14円、ユーロ:132.57円、英ポンド:181.30円、人民元:18.85円
 2016年度期中平均予想レート 米ドル:113円、ユーロ:127円、ポンド:165円、人民元:17.2円

ニューロロジー領域 業績のポイント



E2609*1

FDAとのEOP2ミーティング*2で良好な協議、フェーズIII試験は年度内に開始予定

BAN2401*1

フェーズII試験で700例の症例登録達成、症例数増加に伴い成功確度が向上

Lemborexant*3

不眠症対象フェーズIII試験開始、ベストインクラスをねらう
認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害でフェーズII試験まもなく開始、世界初の適応症へ

E6011

2つのフェーズI/II試験で良好な中間解析結果を取得
新規メカニズムによる関節リウマチとクローン病の新たな治療をめざす

Fycompa

新規メカニズムによる抗てんかん薬ポジショニングの加速
日本での上市達成によるグローバル展開と価値最大化への取り組み

次世代アルツハイマー型認知症治療薬 E2609^{*1}



FDAとのEOP2ミーティング^{*2}で良好な協議、フェーズIII試験は年度内に開始予定

当局相談

FDA(米国) 7月20日に End of Phase II ミーティングを開催
フェーズIII試験のプロトコルデザインに関し良好な協議を実施

試験デザインの5つのキーファクター

対象患者様

期間

最適用量

エンドポイント

安全性

- EMA (欧州) 2016年度3Q予定
- PMDA (日本) 2016年度3Q予定

最適用量の設定

- ◆ フェーズII試験:全ての用量(5mg、15mg、50mg)で安全性を確認
- ◆ ヒューマンジェネティックエビデンス^{*3}とフェーズI・II試験のPK/PDデータから至適Aβ低下率に達する有効な用量(50mg)を確認

*1 Biogen社との共同開発 *2 End of Phase II ミーティング

*3 参考文献

1) Jonsson, T. et al. (2012) A mutation in APP protects against Alzheimer's disease and age-related cognitive decline. Nature 488: 96-99

2) Maloney, J. A. et al (2014) Molecular mechanisms of Alzheimer disease protection by the A673T allele of amyloid precursor protein. J Biol Chem 289: 30990-31000

次世代アルツハイマー型認知症治療薬 BAN2401^{*1}

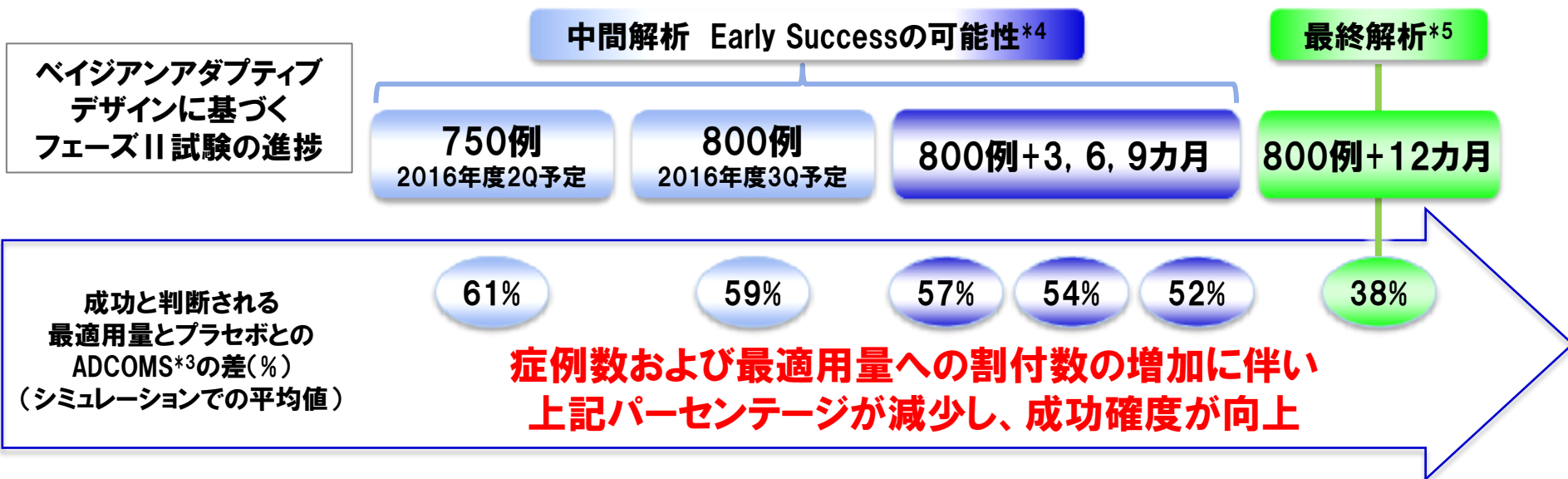


フェーズII試験で700例の症例登録達成、症例数増加に伴い成功確度が向上

フェーズII試験は順調に進捗

- 2016年6月に700例の症例登録達成、IMC^{*2}は試験継続を推奨
- 750例の症例登録は2016年度2Qに予定

フェーズII試験結果がポジティブな場合、承認申請要件を満たす試験としての活用について当局と協議中



*1 Biogen社との共同開発 *2 Independent Monitoring Committee 独立モニタリングコミッティー *3 Alzheimer's Disease Composite Score
 *4 中間解析におけるEarly Successのクライテリア: 投与開始から12カ月後に最適用量とプラセボとの差が少なくとも25%(1年間におけるADCOMSの点数の変化に対する改善の度合い)となる確率が95%以上
 *5 最終解析のクライテリア: 投与開始から12カ月後に最適用量とプラセボとの差が少なくとも25%(1年間におけるADCOMSの点数の変化に対する改善の度合い)となる確率が80%以上

Lemborexant^{*1} オレキシン受容体拮抗剤



認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害でフェーズII試験まもなく開始
世界初の適応症へ

不眠症

高齢者の患者様を対象にしたユニークなポジショニングで
ベストインクラスの不眠症治療剤をめざす

フェーズIII試験(304試験) 2016年5月開始^{*2}

55歳以上の不眠症患者様におけるLemborexantの有効性および安全性の検証
(Zolpidemとの直接比較試験)

対象: 55歳以上の不眠症患者様950名 **少なくとも60%は65歳以上**
主要評価項目: 夜間の後半における中途覚醒時間(29-30日目)
Lemborexant 10mg群 vs Zolpidem 6.25mg群

不規則睡眠覚醒リズム障害 (ISWRD^{*3})

アルツハイマー型認知症(AD)患者様を対象に
ISWRDのフェーズII試験を計画中
ファーストインクラスのISWRD治療剤をめざす

- FDAとのプレINDミーティングを7月に実施、ISWRDが一般的な不眠症と異なる定義と確認
- AD患者様におけるフェーズII試験をFDAが支持
- フェーズII試験 2016年度3Q開始予定、フェーズIII試験 2017年度開始予定

2つの適応症で2020年度までに上市をめざす

*1 Purdue Pharma社との共同開発

*2 2016年度中に他のフェーズIII試験も開始予定

*3 Irregular Sleep Wake Rhythm Disorder 睡眠や覚醒の出現が昼夜を問わず不規則になる病態

E6011 ヒト化抗フラクタルカイン抗体

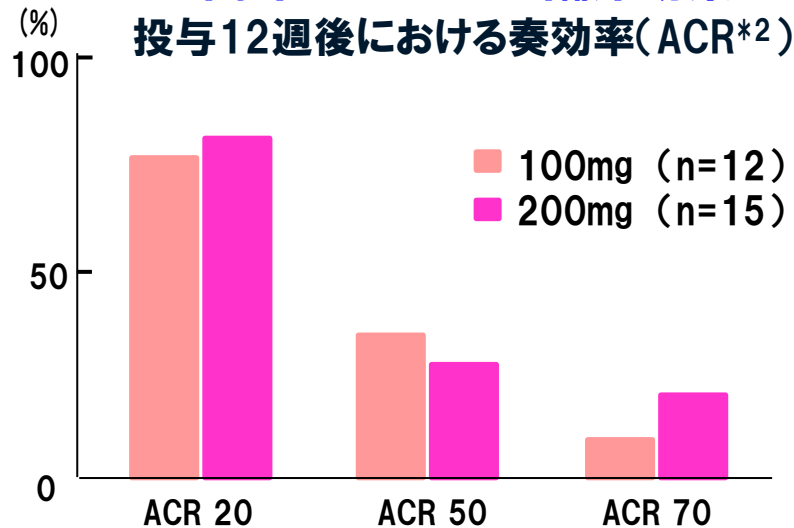


2つのフェーズI/II試験で良好な中間解析結果を取得
新規メカニズムによる関節リウマチとクローン病の新たな治療をめざす

従来のサイトカイン療法とは異なる新規メカニズムによる細胞浸潤抑制作用を期待

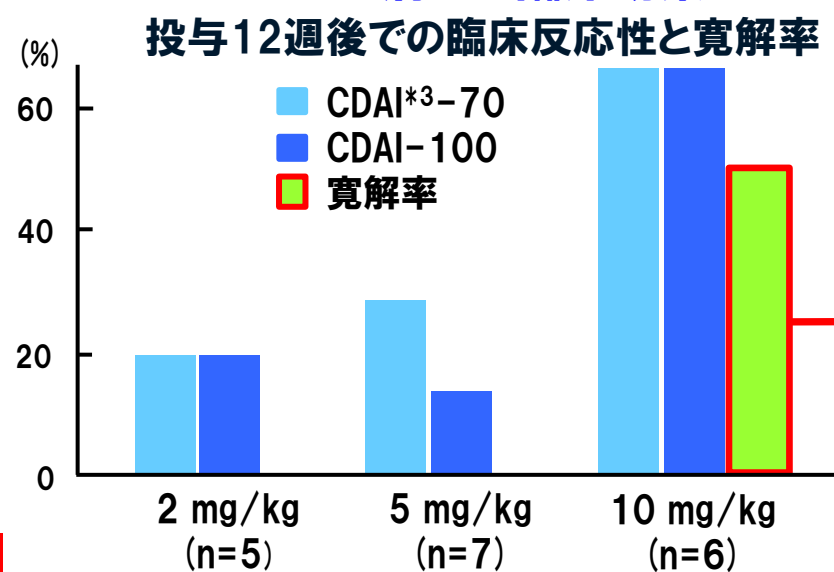
2つのフェーズI/II試験の中間解析において
臨床効果ならびに**忍容性^{*1}**を示唆する結果を取得

関節リウマチでの臨床効果



投与12週後、200mg投与群の80%がACR20を達成
現在、追加用量(400mg)を評価中
二重盲検の新たなフェーズII試験を
2016年度中に開始予定

クローン病での臨床効果



10mg/kg投与群で寛解を確認
現在、15mg/kgを評価中

*1 今後の開発を進める上で懸念される有害事象は認められていない

*2 ACR: American College of Rheumatologyで作成された関節リウマチ臨床症状改善度の基準。関節リウマチの活動性に関する7項目(①圧痛関節数、②腫脹関節数、③被験者による疼痛評価、④被験者による疾患活動性の全般評価、⑤医師による疾患活動性の全般評価、⑥被験者による身体機能評価、⑦急性期反応蛋白[CRP])のうち、①および②の20%以上の改善に加え、さらに③~⑦の5項目中3項目で20%以上の改善が認められた被験者の割合をACR20と示す。同様にACR50、ACR70はそれぞれ50%以上、70%以上の改善が見られた割合を示す。

*3 CDAI: Crohn's Disease Activity Index クローン病の症状の程度をはかる指標の一つで、水様便または軟便の1日排出回数、腹痛の重症度、全身健康度などの健康状態に関する8項目をもとに算出する。値が小さいほど症状が軽く、大きいほど症状が強いとされ、CDAIが150未満になると症状がほとんどなくなった「寛解」、450以上を「劇症(極めて重症)」としている。CDAI-70とCDAI-100は、それぞれCDAIが70以上、100以上の改善が見られた割合を示す。

新規メカニズムによる抗てんかん薬ポジショニングの加速 日本での上市達成によるグローバル展開と価値最大化への取り組み

日本での上市達成によるグローバル展開の加速

1Q売上収益 25億円（前同比169%）

50カ国以上で承認を取得
40カ国以上で強直間代発作に係る適応拡大の承認を取得

日本 2016年5月に上市達成

➢ てんかんの部分発作、強直間代発作の同時承認取得を果たし、非競合的AMPA受容体拮抗作用の新規メカニズムを有する国産の抗てんかん薬としてターゲット施設への早期採用をめざす

アメリカス・EMEA 1Q売上収益前同比
アメリカス164%、EMEA150%

- 米国で経口懸濁液を上市(2016年6月)
- ブラジルで承認を取得(2016年5月)
- オーストラリアで強直間代発作の適応を取得(2016年5月)

アジア

- 香港、台湾で強直間代発作の適応を取得(2016年4、5月)

価値最大化に向けた取り組みの加速

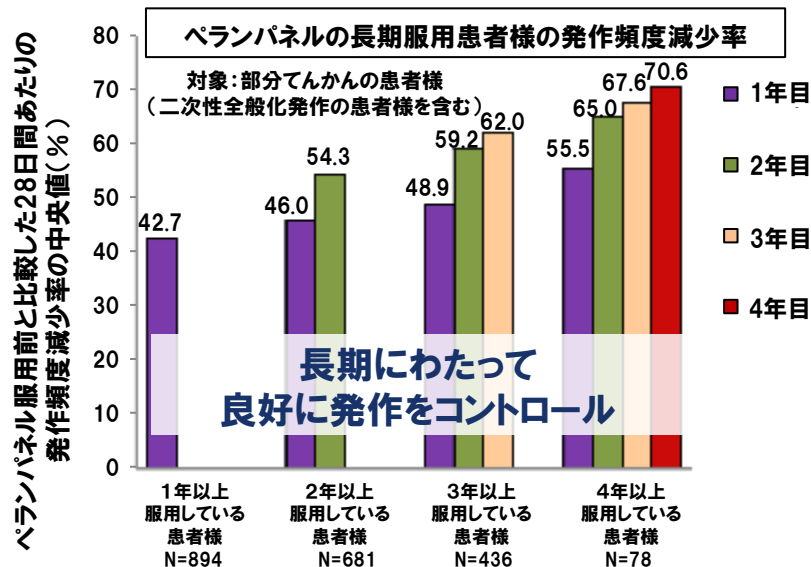
単剤療法
上市をめざし当局と相談中
(米国・欧州)
上市目標:
2016年度(米国)
2017年度(欧州)

小児適応
フェーズII試験進行中
(米国・欧州)
上市目標:2018年度

中国上市
上市をめざし
開発を加速
上市目標:2019年度

レノックス・ガストー症候群
2016年度中のフェーズIII試験
開始に向けた準備に着手
上市目標:2020年度

第68回米国神経学会で長期服用に関する良好なデータを発表



エーザイがリーダーシップを発揮している ニューロロジー領域における大きな進展



複数の新規作用機序をターゲットとしたアルツハイマー型認知症 および認知症における Robust なパイプラインの進展

- ✓ E2609*1: 2016年度中のフェーズIII試験開始をめざす
- ✓ BAN2401*1: 2016年度3QまでにフェーズII試験のLPI*2をめざす
(試験結果次第では、承認申請要件を満たす試験としての活用を追究)
- ✓ Aducanumab: Biogen社により2つのフェーズIII試験が進行中
(エーザイは共同開発・共同販促のオプション権を保有)
- ✓ Lemborexant*3: 認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害(ISWRD)でフェーズII試験を
まもなく開始予定、フェーズIII試験を2017年度に開始予定
- ✓ E2027: 認知症の中核症状および周辺症状の改善に向けて、フェーズI試験で
Proof of Mechanismを確認、今後の試験デザインを検討中

豊富な自社のディスカバリーエンジンが 数多くのファーストインクラスのアセットを創出

- ✓ E6011: 関節リウマチを対象としたフェーズII試験を2016年度中に開始予定
- ✓ Fycompa: 50カ国以上で承認を取得、ライフサイクルマネジメントやリアルワールド
エビデンスの創出に向けたプログラムも進展
- ✓ てんかんを対象とした新たな作用機序を有する新規化合物を2016年度にIND申請予定

オンコロジー領域 業績のポイント



LENVIMA

腎細胞がん2ndライン^{*1}の承認取得と
価値最大化への取り組みの進展

Halaven

米国・日本に続く欧州での軟部肉腫^{*2}の承認取得と
乳がんの早期ラインでの併用療法における開発の加速

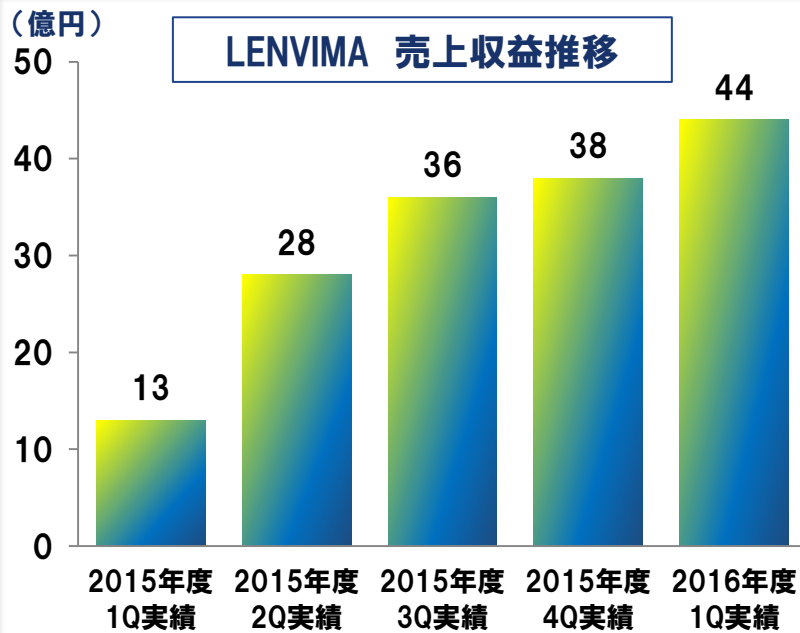
E7046

ファーストインクラスの経口投与可能な低分子EP4阻害剤
術前放射線療法との併用による治癒をめざす

H3 Biomedicine

革新的プレジジョンメディシン候補の臨床試験を開始

腎細胞がん2ndラインの承認取得と価値最大化への取り組みの進展



腎細胞がん2ndライン承認取得
米国:2016年5月 (欧州:7月承認勧告受領)
 ブレークスルーセラピーと優先審査品目の指定により
 フェーズII試験データで早期に承認取得
腎細胞がんにおいて、革新的な初めての併用療法*1

ノバルティス社とのコ・ディテリングを開始(米国)



1Q 売上収益 44億円(前同比348%)
 甲状腺がん、腎細胞がん患者様への貢献を拡大し
 年度見通し280億円の達成をめざす

腎細胞がん1stライン

2つのレジメンで
1stラインをねらう

レンバチニブ
+ ペムプロリズマブ

VS

スニチニブ

VS

レンバチニブ
+ エベロリムス

- ・ フェーズIII試験を2016年度2Qに開始予定*2
 主要評価項目: 無増悪生存期間(PFS)

肝細胞がん1stライン

- ・ フェーズIII試験進行中、2016年度中にグローバル申請予定

ペムプロリズマブとの併用療法

- ・ フェーズIb/II試験のフェーズIIパート進行中

肺がん、メラノーマ、頭頸部がん、膀胱がん、腎細胞がん、子宮内膜がん

米国・日本に続く欧州での軟部肉腫*1の適応取得(2016年5月2日)と 乳がんの早期ラインでの併用療法における開発の加速

乳がん*2、軟部肉腫の適応症での患者様貢献の最大化

承認されている適応症

乳がん

軟部肉腫

複数の大規模試験で単剤での
OS延長が確認された唯一の化学療法剤

1Q 売上収益 94億円 (前同比93%)

為替の影響を除いた前同比103%

- 臨床試験で証明されたOS延長の重要性を訴求
- キーアカウントにフォーカスしたHER2ネガティブとトリプルネガティブ乳がんのセカンド/サードラインにおけるポジショニング確立
- 新規作用機序に基づくリアルワールドエビデンスの創出を加速

中国 2016年7月に申請資料提出済

中国で実施した乳がんを対象としたフェーズIII試験において
主要評価項目である無増悪生存期間をビンレルピン投与群と
比較して、統計学的に有意に延長

併用療法の開発を加速 (上市目標:2020年度以降)

ペムブロリズマブとの
併用療法

- 転移性トリプルネガティブ乳がんに対する効果の可能性を追究
- フェーズIb/II試験のフェーズIIパート進行中

PEGPH20*3との
併用療法

- HER2ネガティブ乳がんを対象
- 2016年7月にフェーズIb/II試験の First Patient in を達成

微小環境モジュレーターとしての価値最大化へ

*1 米国、欧州での適応症:脂肪肉腫、日本での適応症:悪性軟部腫瘍

*2 米国での適応症:局所進行性・転移性乳がん3rdライン以降、欧州での適応症:局所進行性・転移性乳がん2ndライン以降、日本での適応:手術不能又は再発乳癌

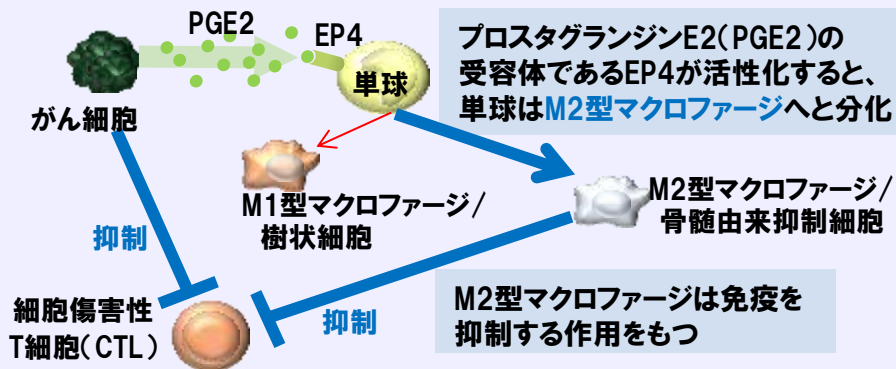
*3 Halozyme Therapeutics Inc.が開発中のPEG化遺伝子組換えヒト型ヒアルロン酸分解酵素

E7046 EP4^{*1}阻害剤

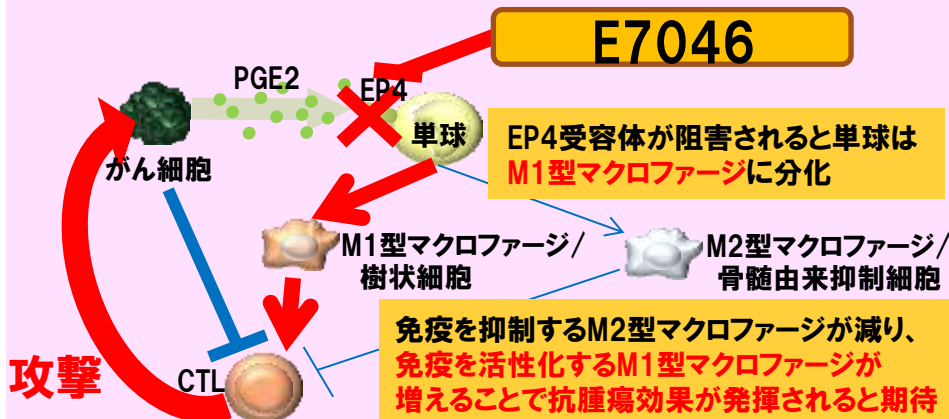


ファーストインクラスの経口投与可能な低分子EP4阻害剤 術前放射線療法との併用による治癒をめざす

がん微小環境下では、がん細胞の駆逐を担う免疫細胞(細胞傷害性T細胞(CTL))が抑制されているため、がん細胞が増殖しやすい



E7046は既存の免疫チェックポイント阻害剤と異なり、マクロファージへの作用を介してがんに対する免疫機能を回復させることにより、抗腫瘍効果が発揮されると期待



フェーズ I 試験進行中

骨髄系細胞の浸潤が亢進しているがんを選択

放射線療法とのシナジー効果を臨床試験で追究

- 放射線療法がEP4リガンドであるPGE2の発現を増加させることが広く知られている*2
- 放射線療法とE7046の併用により細胞傷害性T細胞(CTL)の増加が期待される
- E7046を併用することで放射線療法の抗腫瘍作用が増強する可能性

局所進行性大腸がん患者様を対象とした術前放射線療法との併用
フェーズIb/II試験を
2016年度中に開始予定

2020年度上市をめざす

*1 プロスタグランジンE2(PGE2)受容体は一般に“EP”と略し、EP1、EP2、EP3、EP4の4種類のサブタイプが存在する

*2 Huang Q, et al. Nat Med. 2011 Jul 3;17 (7):860-6.

H3 Biomedicineにおける創薬

革新的プレジジョンメディシン候補の臨床試験を開始

H3B-6527

がんの成長・生存に関わる
ドライバー FGFR4の阻害剤

2016年6月

肝細胞がんおよび肝内胆管がん
を対象としたフェーズ I 試験開始

- ・北米、欧州、アジアのグローバルで実施
- ・FGF19(FGFR4のリガンド)高発現の患者様で臨床でのPOC達成をめざす

肝細胞がん2ndラインでの早期開発をめざす

さらなる開発の可能性：
肝細胞がん1stライン

H3B-8800

スプライシング因子
SF3B1のモジュレーター

2016年上期中

進行性血液がんを対象とした
フェーズ I 試験開始予定

- ・北米、欧州のグローバルで実施
- ・MDS*1、CMML*2、AML*3の患者様を含む

- ・スプライシング因子に変異があるMDSでのフェーズII試験をピボタル試験として活用することを検討中
- ・CMMLでも早期開発の可能性を検討予定

2020年度上市をめざす

さらなる開発の可能性：
sAML*4、CLL*5、肺がん、
ブドウ膜黒色腫など

オンコロジー領域 パイプラインの進展



「立地」に基く自社創製のファーストインクラスの 低分子化合物パイプラインが着実に進展

立地： 患者様の真のニーズを満たす上でいまだ人々が成功していない、
あるいは着手していないもので、エーザイがフロントランナーとなり得る機会

LENVIMA

- mTOR阻害剤*1との併用による腎細胞がん2ndライン 米国で承認取得
- 腎細胞がん1stライン フェーズIII試験 2016年度2Qに開始予定
- 抗PD-1抗体ペムブロリズマブとの併用療法の開発を加速

Halaven

- 乳がん・肉腫でのOS*2延長のベネフィット
- 中国での乳がんフェーズIII試験の成功
- 乳がんでの早期ラインで2レジメンの開発を加速
(抗PD-1抗体ペムブロリズマブとの併用療法、PEGPH20*3との併用療法)

E7046

- Myeloid Lineage Platformからのファーストインクラスのがん免疫療法
- 術前放射線療法との併用によるがんの治癒をめざす

H3B-6527 H3B-8800

- H3Biomedicineによるがんゲノミクスに基く
革新的プレジジョンメディシン候補の臨床試験開始

参考資料

セグメント売上収益



(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月		
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	前同比
日本*1	738	53.0	771	56.3	104
アメリカス*2	298	21.4	292	21.3	98
中国	129	9.3	112	8.2	86
アジア*3	86	6.2	86	6.3	99
EMEA*4	102	7.3	90	6.6	89
医薬品事業計	1,353	97.2	1,351	98.6	100
その他事業	39	2.8	19	1.4	47
連結売上収益	1,392	100.0	1,369	100.0	98

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

セグメント利益



(億円、%)

	2015年4-6月			2016年4-6月			
	セグメント利益	構成比	利益率	セグメント利益	構成比	利益率	前同比
日本*1	319	74.9	43.2	291	63.0	37.8	91
アメリカス*2	19	4.6	6.5	70	15.2	24.1	362
中国	40	9.3	30.7	36	7.8	32.3	91
アジア*3	23	5.3	26.2	26	5.5	29.9	113
EMEA*4	19	4.6	19.1	34	7.3	37.3	173
医薬品事業計	420	98.7	31.0	457	98.9	33.8	109
その他事業	6	1.3	14.2	5	1.1	28.2	93
セグメント利益計	426	100.0	30.6	462	100.0	33.8	109
研究開発費および 親会社の本社管理費等	△349			△298			
割安購入益*5				93			
子会社株式売却益*6				1			
連結営業利益	76		5.5	258		18.9	339

* 当連結会計年度より、医薬品事業およびその他の事業のセグメント利益の算定方法を変更し、連結損益計算書の「その他の損益」を医薬品事業とその他の事業へ配分せず、その全額を「親会社の本社管理費等」に含めて表示

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*5 2016年4月にEAファーマ株式取得に伴い割安購入益を計上 *6 2016年4月にサンノーバ(株)を譲渡

日本医薬品事業の業績



(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	738	100.0	771	100.0	104
医療用医薬品計	615	83.3	653	84.7	106
ヒュミラ	81	11.0	94	12.2	116
アリセプト	114	15.5	89	11.6	78
リリカ*1	57	7.7	61	7.9	106
パリエット*2, 3	84	11.4	60	7.7	71
メチコパール	55	7.5	50	6.5	90
ハラヴェン	18	2.5	20	2.6	108
ワーファリン	21	2.8	19	2.5	92
ルネスタ	14	1.9	19	2.5	136
リーバクト*2			19	2.5	
エレンタール*2			16	2.1	
アクトネル	17	2.3	16	2.0	91
レンビマ	2	0.3	7	0.9	367
フィコンパ			1	0.2	
ジェネリック医薬品	69	9.3	71	9.2	103
一般用医薬品等	40	5.5	47	6.1	117
診断薬	14	2.0			
セグメント利益	319	43.2	291	37.8	91

アメリカス医薬品事業の業績



(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	
売上収益	298	100.0	292	100.0	98	[110]
Aloxi	135	45.2	120	41.1	89	[100]
ハラヴェン	44	14.8	42	14.4	95	[107]
レンビマ	11	3.6	32	11.0	303	[340]
Banzel	27	9.2	31	10.6	113	[127]
アシフェックス	25	8.5	18	6.3	72	[81]
Fycompa	7	2.5	12	4.1	164	[184]
BELVIQ	15	4.9	10	3.3	66	[74]
セグメント利益	19	6.5	70	24.1	362	[420]

[]内は現地通貨ベース

中国、アジア医薬品事業の業績



<中国>

(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	129	100.0	112	100.0	86 [102]
メチコバル	51	39.4	40	35.4	78 [92]
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	23	17.5	21	18.6	91 [108]
アリセプト	14	10.6	14	12.3	100 [118]
パリエット	9	7.0	9	8.2	100 [119]
セグメント利益	40	30.7	36	32.3	91 [120]

[]内は現地通貨ベース

<アジア*>

(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	86	100.0	86	100.0	99 [117]
アリセプト	26	30.5	24	28.1	91 [108]
ヒュミラ	22	25.8	24	27.8	106 [126]
パリエット	8	9.6	9	10.2	106 [124]
メチコバル	9	10.1	7	7.9	78 [92]
ハラヴェン	4	5.0	5	5.6	111 [131]
セグメント利益	23	26.2	26	29.9	113 [140]

* 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

[]内は現地通貨ベース

EMEA医薬品事業の業績



<EMEA*>

(億円、%)

	2015年4-6月		2016年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	102	100.0	90	100.0	89 [100]
ハラヴェン	34	33.7	27	30.0	79 [90]
ゾネグラン	20	20.0	15	16.6	74 [83]
Fycompa	7	7.0	11	11.9	150 [169]
Zebinix	9	8.8	7	7.7	77 [86]
イノベロン	5	5.4	5	5.2	86 [97]
レンビマ	0	0.1	4	4.9	6077 [6736]
セグメント利益	19	19.1	34	37.3	173 [190]

* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

[]内は現地通貨ベース